主権者意識への関心を高める社会科授業 ―西アジア地域関連の教材を使って―

吉　田　政　行*

A SOCIAL STUDIES CLASS THAT RAISES CONCERNS OVER THE ISSUE OF RESPONSIBILITY AS A PARTICIPANT IN THE SOVEREIGNTY OF A NATION: USING COURSE MATERIALS ON TOPICS FROM THE CURRENT STATUS OF WEST ASIAN REGIONS

Masayuki YOSHIDA*

Abstract

Most students of the junior high school with which I am involved make serious efforts to understand what they have been told or suggested. However, they are not very good at developing their own thought through exchanging opinions with others. They will nevertheless soon be permitted to vote at younger ages than ever before in Japan. With a hope that these students will graduate from school with the sense that "we ourselves create our society," I developed a class entitled the subject of this paper. The class aims were not only to acquire knowledge on contemporary society, but also to realize that "we are the participants in sovereignty who create our society." Thus, to test the hypothesis that "a future-oriented social studies class raises concerns over the issue of responsibility as a participant in sovereignty in the field of civics education," a class of a project-based learning that includes discussions on the future was undertaken, using course materials on topics from the current status of West Asia. The results of this study show that students gradually acquire capabilities of decision-making, discovering their way of life, and involving the society. These capabilities raise concerns about the protection of human rights, humanity, and the responsibilities of participants in sovereignty.

主題設定の理由

2016年７月，選挙権年齢が18歳に引き下げられて初めての国政選挙が行われた。その７月10日の参議院選挙では，約240万人の18，19歳に新たに選挙権が与えられたとされる。メディアでも高校生の主権者教育はたびたび取り上げられていた。中学校でも３年生での歴史学習から公民学習において，社会参画や主権者意識を学ぶ機会が設けられている。彼・彼女らも３年後には，選挙権を得て，投票行動にかかわることになる。このことは自らが政治にかかわり社会をつくっていくことを意味する。一方，本校の子どもたちの姿を見ると，指示されたこと，言われたことはまじめに取り組める子たちが多い。しかし，積極的に他者と意見を交換し考えを深めることや自分の意見を発信することはあまりできていない。また，自らが主権者であるという意識もまだ高くないように見受けられる。今年度で義務教育を終了する彼・彼女らの中には，すぐに社会人として生活することになる生徒も

＊　愛知県春日井市立高蔵寺中学校　〒487-0016　愛知県春日井市高蔵寺町北2-596
Kozoji Junior High School, Kasugai City, Aichi Prefecture, 2-596 Kozojichokita, Kasugai, Aichi 487-0016, Japan

出てくる可能性がある。私は，これまでよりも若い年齢で選挙権を手にすることになった彼らに「自分たちが社会をつくっていくのだ」という意識をもって卒業していってほしい。そこで，主題を「主権者意識への関心を高める社会科授業」とした。

研 究 の 目 標

子どもたちが主権者意識への関心を高めるケースは以下のようなときであると考えた。

・自分たちの理想とする社会をイメージできたとき。
・自分の意見がまわりに認められたとき。
・自分たちの意見・行動が現代の社会や未来の社会に影響していくことを感じたとき。
・自分たちが発信しなければ，自分たちは社会に流されてしまう存在であると感じたとき。
・自分たちが未来の社会をつくっていけると感じたとき。

これらのことから，私は，社会科公民的分野の授業において，現代社会に関する知識の定着にとどまらず，「わたしたちが社会をつくっていく主権者なんだ」と実感できる授業を目標に研究に取り組むことにした。

研 究 の 仮 説

上述した目標を達成する手だてとして，次のような仮説を設定する。

> 公民的分野の学習において，「未来構築型の社会科授業」を積み重ねていけば，主権者としての意思決定能力，ひいては，生き方形成力・社会形成力を身に付けることができ，主権者意識への関心が高まるであろう。

研究の計画と方法

仮説で示した「未来構築型の社会科授業」とは，現代社会に関心をもたせ，未来を考える課題解決型の話し合い活動を活用するものであり，図１のように描く。図の上から，実践区分を定める→それに対しての目標を設定する→目標に対して評価の方法を設定する。このように目標と評価方法を定めたうえで，授業の具体的な指導計画案へと進む。指導計画においては，活動１～４を組み合わせることによって目標達成を目指す。本研究で行う実践計画は下記のとおりである。

1　本授業実践区分 「これからの人権保障」
2　単元目標の設定
(1)　社会の変化とともに人権の考え方が変化することについて，具体的

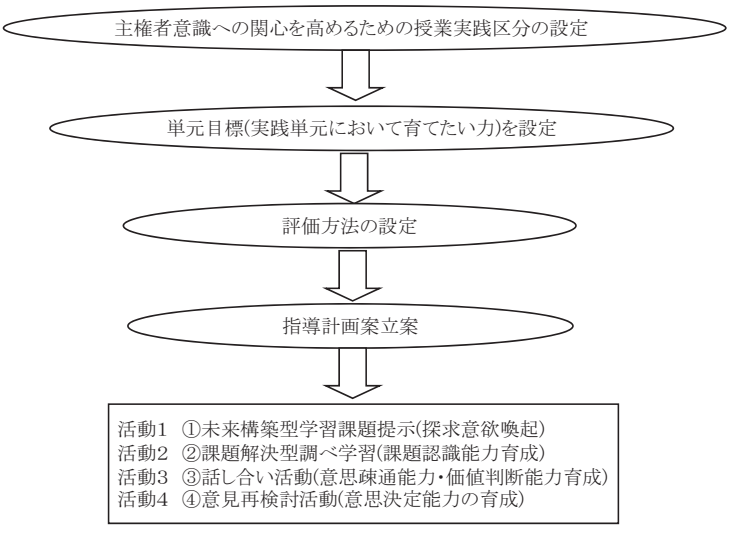


図１　未来構築型の社会科授業の図式

な事例を通して気付かせるとともに，社会の変化に伴って生じた人権上の新しい課題にはどのようなものがあり，それらの解決がなぜ重要なのかを理解させる。

(2)　インターネットと人権との関係や人権保障の国際的な広がりなどについて，統計資料や新聞記事などを適切に選択させ，現状と課題を読み取らせるとともに，その解決策について多面的・多角的に考えさせる。

(3)　話し合い活動などの学習活動を通して，個人の尊重と法の意義への関心を高めさせるとともに，社会の形成者として，人権を守り育て，民主的な社会を創り上げようとする態度を育てる。

3　評価方法の設定

評価方法は表１のとおりに設定した。

表１　評価の方法

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
人権をめぐる近年の動向について関心を高めるとともに，現代社会における人権上の諸課題について，社会の形成者としての立場から関心をもち，自ら人権を守り育て，民主的な社会を創り上げようとする態度が見られる。	社会の変化に伴って生じた人権上の新しい課題について，日本国憲法に基づいて課題を見いだし，対立と合意，効率と公正などの観点から多面的・多角的に考察し，意見交換をしたり，文章にまとめたりしている。	社会の変化に伴ってどのような人権上の課題が生じてきたか，自分の学習に必要な資料を適切に選択し読み取り，短文や図表などにまとめている。	社会の変化に伴って人権の考え方が変化し，環境権やプライバシーの権利などの新しい人権が主張されるようになってきたことについて，具体的な事例を通して理解し，その知識を身に付けている。

4　指導計画案の立案

未来構築型の社会科授業に関して，表２のように指導計画案を立案した。

表２　指導計画案

単元名　中３公民的分野　「これからの人権保障」		
授業時数		おもな学習活動
第１次	1	「社会の変化に伴う新しい人権を考えよう　１」 ・環境権や自己決定権といった産業や科学技術の発展に伴い意識されてきた新しい人権を知る。 ・臓器提供についての自分の意思を理由とともに考える。 ・考えた意思と理由をグループ内で発表しあう。 ・グループ内で出た意見をクラスに紹介する。
	2	「社会の変化に伴う新しい人権を考えよう　２」 ・知る権利やプライバシーの権利といった情報化の進展に伴う新しい人権を知る。 ・ネット社会の問題点を人権の視点から見つけだし，クラスで発表する。 ・見つけ出した問題に対する対策を考える。 ・考えた対策をグループ内で発表しあう。 ・グループ内で出た意見を踏まえた上で自分の意見を再考する。
第２次	3	「グローバル社会における人権保障を考えよう　１」 ・人権保障の国際的な広がりを知る。 ・シリア内戦に伴う文化財の破壊や人権侵害の事例を知る。 ・シリアの問題について①日本は何をすべきか②そのために主権者として私たちには何ができるかを考える。
	4	「グローバル社会における人権保障を考えよう　２」 ・前回考えた①と②をグループ内で発表しあう。 ・グループ内で出た意見をクラスに紹介する。 ・クラスで紹介された意見を踏まえた上で自分の意見を再考する。

研究の実践と考察

1　意思決定能力，生き方形成力・社会形成力の定義

私たちはさまざまな局面において意思決定を行っている。課題をつかみ，課題解決の情報を取捨選択し，自分なりの解決策を見出す。さらに，さまざまな意見を比較することで価値を判断しながら，考えを再考し，最終的に自分の意見を決定していく。この能力を「意思決定能力」とする。この力は主権者に必要な力であり，どのように生きたいかという視点から自分の生き方を形づくっていく「生き方形成力」や，主権者としてどのような社会をつくっていきたいかという「社会形成力」にも通じる重要な能力と考える。

2　授業構成の工夫

指導計画案にもとづき，授業を実践した。基本的な授業構成は図２のとおりに設定した。

(1)　課題提示の工夫

主権者意識への関心を高めるためには，社会的事象へ関心をもつことが必要である。そのため，授業への参加度を高めることで，社会的事象への関心が高まるのではないかと考えた。そこで，課題の提示においては画像・動画といった視聴覚資料やＩＣＴを活用することで，視覚にうったえ，課題への興味をもたせるようにした。

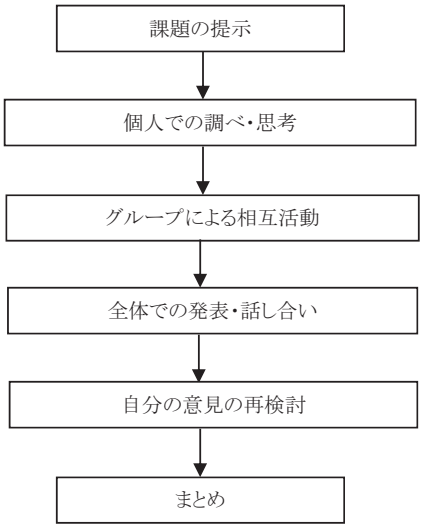


図２　話し合い活動を取り入れた授業

(2)　個人思考の時間確保

授業において意思疎通能力・価値判断能力を伸ばすためには，相互に意見を述べ合う活動を行うことが大切であると考えた。さらに，充実した活動とするためには，一人ひとりに「解決策」や「疑問」をもたせて話し合い活動に参加させることが必要である。そのために，課題に対して「個人思考の時間」を設けて相互活動への準備段階とした。

(3)　少人数による相互活動

意思疎通能力の基本は「話す力」,「聞く力」,「読む力」と考える。話し手は「話す」行為の中で，自分の考え・意見を伝えるために既習の知識・技能を使って話し方を工夫する。聞き手も，話し手と同様に大切な役割をもつ。聞き手が何気なく聞いているだけでは，意見の一方通行になってしまい，意思疎通は成立しない。聞き手が「自分と相手の共通点・相違点を意識して聞く」,「疑問点は何度でも聞き返す」ことができて，はじめて意思疎通が成立する。そして，話し手・聞き手両者は場の雰囲気・空気を読むことも必要となる。話す機会・聞く機会を増やすために，少人数での相互活動は有効である。目的に応じて二人組みの活動，班の活動を行うこととする。

(4)　全体での発表・話し合い

班での話し合いの結果は代表者が発表する。必要に応じて班員が補助する。発表者は他の班との同異に気を付けて発表する。

3　授業実践

実践１において，まず個人調べでグローバル社会や人権保障のための国際的な取り組みを調べさせた。全員，何らかの取り組みを見つけることができた。次に，自分の調べたことを隣同士で確認しあった。そこで，全体に発表させ，人権保障が国際的に広がっていることに気付かせた。次に，筆者がかつて訪れた際のシリアの写真と当時自分が体験した話を紹介した。その後，筆者も訪れたその場所が空爆で破壊されたことを伝え，続けて，画像や動画などの視聴覚資料を用いて，シリア内戦の経緯，文化財の破壊行為，拷問・虐待・少年兵など人権の破壊行為（人権侵害），難民などの現状を紹介した。そして，シリア内戦に関する課題を提示し，個人思考により，個人の考えをプリントに記入させた。

実践２では，導入において，イドリブにて空爆により学校が被害にあったというシリア内戦に関する新聞記事を紹介し，前時に記入したプリントをもとに，課題と自分の考えを再確認した。そのうえで，班で自分の考えを発表させた後，班の代表者に班で出た意見をクラス全体に発表させた。Q①については，物資の提供，医療支援，難民の受け入れ，何もすべきでないという意見など，Q②については，募金，署名，ボランティア活動，ネットで配信，この問題を取り上げる議員に投票するなどが出された。これらの発表を受け，個人思考で自分の意見を再考させた。全員記入することができたが，再考することで当初の意見をより具体的にできたもの，自分の意見を変えて他者の意見に賛同するもの，他者の意見をもとに改めて自分の意見を書けるものなどがみられた。

実践1「これからの人権保障」(本時3／4)

目標	
・人権尊重に関する国際的な動きについて調べることができる。(関心・意欲・態度) ・資料をもとに、グローバル社会における人権上の課題と解決への努力について考えることができる。(思考・判断・表現)	
指導過程	
流れ	生徒の活動 ／ 教師の支援
課題の提示	1 本時の目標をつかむ。 2 本時のめあてを知る。 5 ＜グローバル社会における人権保障を考えよう 1＞
個人調べ	3 個人で取り組む。 ・人権保障のための国際的な取り組みを調べてノートに書く。 ・箇条書きでノートに書くよう指示する。 3
少人数による相互活動	4 二人組で活動する。 ・調べたことを隣同士で確認し合う。 ・相手に分かりやすいように紹介するよう指示する。 3
全体での活動	5 クラスで発表する。 ・確認できたことを発表する。 ・人権保障の国際的な広がりに気付かせる。 6 本時の課題をつかむ。 ・シリア内戦に伴う文化財の破壊や人権侵害の事例を知る。 ・シリア内戦に伴う視聴覚資料を提示する。 ・諸問題のキーワードを示す。 24 Q ① シリア内戦に伴う諸問題に対して日本は何をすべきか？ ② そのために主権者として私たちには何ができますか？
個人思考	7 個人で取り組む。 ・プリントに、課題に対する自分の考えを記入する。 ・できるだけ具体例をまじえて書けるよう指示する。 7
まとめ	8 次時の予告を聴く。 ・次時の活動を示す。 3

図３　実践１指導案

実践2「これからの人権保障」(本時4／4)

目標	
・グローバル社会における人権上の課題と解決への努力について意見交換することができる。(思考・判断・表現) ・他者の意見と自分の意見を比較し、主権者としてより良い方策を考えることができる。(関心・意欲・態度)	
指導過程	
流れ	生徒の活動 ／ 教師の支援
課題の提示	1 本時の目標をつかむ。 2 本時のめあてを知る。 ・シリアにおける学校の空爆被害の資料を新たに提示する。 ＜グローバル社会における人権保障を考えよう 2＞ Q ① シリア内戦に伴う諸問題に対して日本は何をすべきか？ ② そのために主権者として私たちには何ができますか？ 5
個人活動	3 個人で取り組む。 ・前時に記入したプリントを見ながら、前時の振り返りを行い、今一度課題をつかむ。 ・課題のキーワードを再提示する。 3
少人数による相互活動	4 班で活動する。 ・前時に記入したプリントをもとに、班でお互いに自分の考えを説明しあう。 ・グループ隊形にさせる。 ・説明がわからないといわれた生徒には、ほかの生徒の説明を参考にして説明するよう助言する。 7
全体での活動	5 クラスで発表する。 ・班であがった考えを各班が発表する。 ・どの班の考えがより望ましいかを考える。 ・より具体的に説明できるよう指示する。 ・「主権者」としての意識をもつよう助言する。 ・自分の考えとの同異に気を付けて聴くよう言葉かけをする。 20
個人思考	6 個人で取り組む。 ・クラスで出た発表を聞いた上で、プリントに現在の自分の考えを記入する。 ・変化してもよいことを伝え、「なぜそう思ったのか」をあわせて書けるよう指示する。 5
まとめ	7 本時のまとめ ・発表をもとに可能な手だてを確認する。 8 次時の予告を聴く。 ・生徒の意見の板書を活用する。 ・次時のテーマである「政治」との関係を示す。 5

図４　実践２指導案



図５　授業の様子と使用した資料の一部
左上：プリント　　中央上：新聞記事を投影（イドリブの学校空爆被害）
左下：話し合い活動の様子　　中央下：破壊される文化財の資料　　右：シリアの町が変化した資料

4　授業の考察

はじめに，筆者が実際にシリアを訪れた際の画像や話を紹介し，さらに「学校」という自分たちが今学んでいるような施設がシリアでは爆撃を受けているという事実を加えて，現在のシリアの話を紹介したことで，生徒らは興味をもち，意欲的に取り組むことができた。また，「シリアは国際人権規約の締約国でもある」ことを紹介したところ，現実とのギャップから人権保障の難しさに気付く生徒もいた。

今回の課題では，これまでに学んできた基本的人権の保障とからめて，国のとるべき方針を考えさせてから，自分に何ができるかを考えさせた。そのため，多くの生徒が主権者としての手だてを考えることができた。なかには，「主権者としてってどういう意味ですか」と質問する生徒もおり，主権者という言葉の意味をしっかりと確認した上で課題に取り組みたいという姿勢が認められた。班での話し合い活動では班員の発表に対して，「それってどういうこと」などと質問するシーンも見受けられ，班での活動が意思疎通能力を学びあう場所になっていると感じた。さらに，全体での発表では，「物資を提供する」という意見に対して，前時に内戦の経緯として紹介したアサド派・反アサド派・イスラム国の三つ巴の戦いを想定して，「シリアは内戦で大きく三つのグループに分かれていたよね？」と助言したところ，「欧米が支援している反アサド派へ」，あるいは「どこかを選ぶと日本が攻撃されるかも」といった声も上がり，具体的に考えることができるものもいた。

成 果 と 課 題

今回授業を実践している３年生は，１年時に地理的分野において西アジア地域を学習した。その際，生徒に西アジアの国のイメージをたずねると，産油国のイメージをあげた生徒は多かった。しかし，西アジアの国としてシリアを挙げる生徒はまったくおらず，「シリアの話＝遠い国の話＝他人事」と捉えがちである。そのためか，当初「日本が何をすべきかなんてわからない」といっていた生徒もいた。そこで「もし日本がこのようになってしまったらどうする？」，「どんなことをしてもらったらうれしいな，ありがたいなと思うかな」というような，人権の基本である「相手の立場にたって思いやること」につながる助言をすることによって，「あ，そうか〜」と声

を上げ，国に採用して欲しい手だてを考えることができた。全体での発表では，事前の班活動において，各自が意見を述べることができたため，代表者も自信を持って全体に発表することができた。主権者意識という点では，「選挙」，「投票」，「議員」，「立候補」，「デモ」，「署名」，「安倍さんに声を届けたい」といった政治活動と結びつけて考えられる子もいた。それらの意見を聞くことによって，別の意見を持っていた子も，自分の意見を再考する際に，「投票したい」や「選挙に行きたい」など政治に関する行動を書いた子も多く出てきた。これらのことから，図１に示した活動１～４を利用することで，少しずつ意思決定能力，生き方形成力，社会形成力が身に付いてきたようである。それらの力によって，人権保障や思いやりについての意識を高められたとともに，主権者意識への関心も高められたと考えられる。

ただ，課題に対する個人活動で各自の意見を書いた際には，「政治方針の決定に参画する」というよりも，「募金する」などの個人的な活動を中心に考える生徒も多かった。ほかにも，「政治家や政府にしっかりして欲しい」という感想も書かれ，まだ自分たちがこれからの社会や国をつくっていくのだという意識が低いものもいた。引き続き関心を高められるような授業を実施したい。

また，教師の質問により具体例を考えて意見を深めさせることはできたが，生徒同士の質問で意見を深めさせることができなかった。次の新学習指導要領でもうたわれるであろう「主体的な学び」という点については，他者の意見をしっかり聞き，生徒自身がお互いに質問し，各自の意見が深められるような展開が求められると感じた。今後はそういった点を実現できるよう努力していきたい。

あとがき・謝辞

大沼先生との出会いは，このたびの企画・編集をしてくださった西秋さんを通じてであった。私は，「学閥にとらわれない」母校のおかげで，当時，総合資料館６階におられた西秋さんのもとでも学ばせていただいていた。どこの馬の骨ともわからない怪しい早稲田の学生にお二方ともとても親切に温かく接してくださった。そして，かながわ考古学財団に勤務することになったが，石器技術研究会の活動にも参加させていただき，大沼先生との交流も続けさせていただいた。大沼先生はかつて南山大学でも学ばれ，ちょうど父と同名でもあることから，愛知出身の私は勝手に「東京のお父さん」のように親近感を覚えていた。その後に私は，縁あって「考古遺物」ではなく「中学生」と接する愛知の教育現場に転身することに。そんなある日，大沼先生からこのたびのありがたいお話をいただき，「え，私でいいんですか？」と驚いたことを覚えている。本誌には場違いなテーマかもしれないが，今の私が直面する「現場」をもとに文章を用意させていただいた。なにとぞ御許し願いたい。また，春日井市立高蔵寺中学校教務主任の長濱浩昭先生からは草稿に対して御助言をいただいた。そして，都の西北で同門の久米さんには編集等でお力添えいただいた。ここに挙げた方々・組織の方々をはじめ，私を育ててくださったすべての皆様に感謝申し上げる。

参考文献

池上　彰
2013　『池上彰の憲法入門』筑摩書房

前嶋深雪・久保優澄
2016　「チームワークトレーニングと授業活用への提案―「主体的に学ぶ力」を高め合う新たなコミュニケーション活動―」『東京学芸大学紀要．人文社会科学系Ⅰ』67号，７－19頁

宮崎正勝
2015　『中東とイスラーム世界が一気にわかる本』日本実業出版社

Olympia Restaurant
n.d.　www.facebook.com/Olympia.Rest/photos/?tab=album&album_id=770898579647858